

地域公共交通の現状課題・分科会報告について

5/1(水)に地域公共交通計画推進分科会を開催し、利用実績等について確認するとともに、主に交通事業者から地域公共交通の現状と課題について報告を受け、意見交換を行った。

(1) 現状と課題について

【バス】

- ・利用実績について、1月協議会時の報告と同傾向にあり、瀬戸大橋線など利用者が増加した路線もあるが、減便の影響のため、利用者数は全体で減少している。
- ・半年間の実績の比較で、前年度比 5000 人ほど減少となっている。
- ・4月・5月については、瀬戸内国際芸術祭の影響で、瀬居線の利用者が倍増している。瀬居線に並行してシャトルバスを運行しているが、一般路線で利用している 1日フリー乗車券を、シャトルバスでも利用できるようにしたことで、相乗効果が起こった。
- ・瀬戸内国際芸術祭に際して、バスの案内を行っているが、アジア系の外国人観光客のかたの利用が多いように見受けられる。瀬戸内国際芸術祭以外のバス利用について尋ねられた際は、瀬戸大橋線を PR した。
- ・乗務員の状況については、採用者と退職者が同数程度で、依然不足する状況で横ばいとなっている。採用では、大学生も 1 名採用ができた。

【デマンドタクシー、乗用タクシー】

- ・南エリアのデマンドタクシーでは、営業区域が拡大された大池町の乗降場所が多く使われている印象である。
- ・利用者の増加には、決済方法が増えたことや、無料デー等も影響していると思う。
- ・東北エリアのデマンドタクシーについては、通学生の利用は多いが、従来バスを利用していた一般利用者が、デマンドの 1 回目の利用に至っていないと思う。1 度利用いただければ引き続き利用いただける傾向にある。ハローズへの買物利用が増えてきている。
- ・王越地区のかたから、「市立病院まで行きたいが、ハローズで乗り換え、坂出駅で乗り換えと 2 回乗り換えることになり、負担が大きい。」という声があった。ハローズまでデマンドで利用し、ハローズ以降を乗用タクシーに切り替えることも可能だと提案し、そのような利用もでてきた。ハローズから乗用タクシーで MIRAI 病院へという利用もある。
- ・府中地区と加茂地区を統合した東南エリアについては、想定していたよりも利用者が増えたため、配車運用など事務負担が大きくなっている。1 便あたり 12 名という利用もあった。AI システムを導入したが、ルール通りにしか配車できないため、手作業での修正も多い。
- ・東南エリアのデマンドは下り 12 時の便に利用が集中しているため、時刻の見直しも必要かもしれない。

- ・府中町では、老人クラブからイオン綾川や滝宮病院への要望があった。現在のところは、デマンドで直接綾川町まで行くことはできないが、府中町内の綾川町寄りの乗降場所までデマンド利用し、そこから乗用タクシーに切り替える利用であれば、比較的安価で利用できることを提案し、老人クラブ会長がその旨、地域に周知してくれている。

【鉄道】

- ・人口減少により定期券利用者は減少しているが、インバウンドの利用は増えている。
- ・高松駅周辺で高松オルネや県立アリーナが開業した影響で、近距離の利用も増えている。

【地域】

- ・地域の事業者と「持続可能な公共交通の実現に向けた共創に関する連携協定」を締結した。
- ・国内観光客から、坂出駅周辺に駐車場が少ないという苦情があったことがある。
- ・坂出駅から西大浜方面のホテルまでのアクセスが悪いという声もあったが、バスが通っていることや、タクシーも充実しているということをPRしていく必要がある。
- ・地域では飲酒を伴うイベントもあるので、そういった際に公共交通を使っていたきたいが、なかなか認知してもらうことが難しい。

【TicketQR】

- ・TicketQR の利用率について、10 月以降、バスで 13%前後、デマンドで 40%前後の状況で横ばいとなっている。
- ・TicketQR で公共交通無料デーについて、休日のイベントコラボに加えて、第 4 水曜日を定例日とした。
- ・国土交通省の「地域のモビリティ確保の知恵袋 2024」に事例として掲載された。

(2) 意見等

- ・高松空港の国際線が増えたことで、四国全体にインバウンドが増えている。瀬戸大橋線など、外国では見られない風景が見えるため、上手くPRすれば利用促進につながれると思う。
- ・インバウンドが増えている中で、外国人ドライバーの事故も散見されるようになっている。公共交通利用でトラブルなく安全に観光できるようにしてほしい。
- ・市の広報誌について、これまで自治会を通じた配布となっており、自治会加入者にしか届いていなかったが、7 月からは全戸配布に変更になる。バスやデマンドを必要としているが、自治会に加入していないために、情報が届いていなかったという市民もいると思われるので、これを機に改めて広報誌や配布物でPRを図ってみてはどうかと思う。
- ・地方の若者にとって、自動車保有コストの懸念から、自動車がなければ生活できない地方での就職を諦めて、自動車がなくても生活できる東京で就職するという話も聞く。住みやすいまちづくりという面でも公共交通が重要となる。

坂出市補助対象系統 利用者数等比較

系統		R6 (R5. 10~R6. 3)	R7 (R6. 10~R7. 3)	増減	前年比率 (%)
循環バス (東ルート)	利用者数	13,777人	11,525人	▲ 2,252人	83.7%
	運行便数	2,451便	2,238便	▲ 213便	91.3%
循環バス (西ルート)	利用者数	10,364人	10,977人	+ 613人	105.9%
	運行便数	2,451便	2,238便	▲ 213便	91.3%
島田岡田線	利用者数	18,288人	18,511人	+ 223人	101.2%
	運行便数	3,504便	3,190便	▲ 314便	91.0%
瀬戸大橋線	利用者数	8,692人	9,156人	+ 464人	105.3%
	運行便数	1,704便	1,696便	▲ 8便	99.5%
瀬居線	利用者数	6,687人	6,584人	▲ 103人	98.5%
	運行便数	1,830便	1,820便	▲ 10便	99.5%
王越線 ※1	利用者数	18,209人	12,473人	▲ 5,736人	68.5%
	運行便数	4,495便	2,210便	▲ 2,285便	49.2%
デマンド (東北)※2	利用者数	/	950人	+ 950人	/
	運行便数	/	581便	+ 581便	/
デマンド (府中等)※3	利用者数	1,108人	2,158人	+ 576人	136.4%
	運行便数	619便	1,102便	+ 100便	110.0%
デマンド (加茂等)※3	利用者数	474人	↑ 統合	↑ 府中等+加茂等の合計と 東南エリアを比較	
	運行便数	383便			
デマンド (川津)※4	利用者数	184人	310人	+ 126人	168.5%
	運行便数	159便	191便	+ 32便	120.1%
合計	利用者数	77,783人	72,644人	▲ 5,139人	93.4%
	運行便数	17,596便	15,266便	▲ 2,330便	86.8%

※1：王越線R6は、木沢行きと青海行きの合算。R7は、木沢行きと林田循環の合算

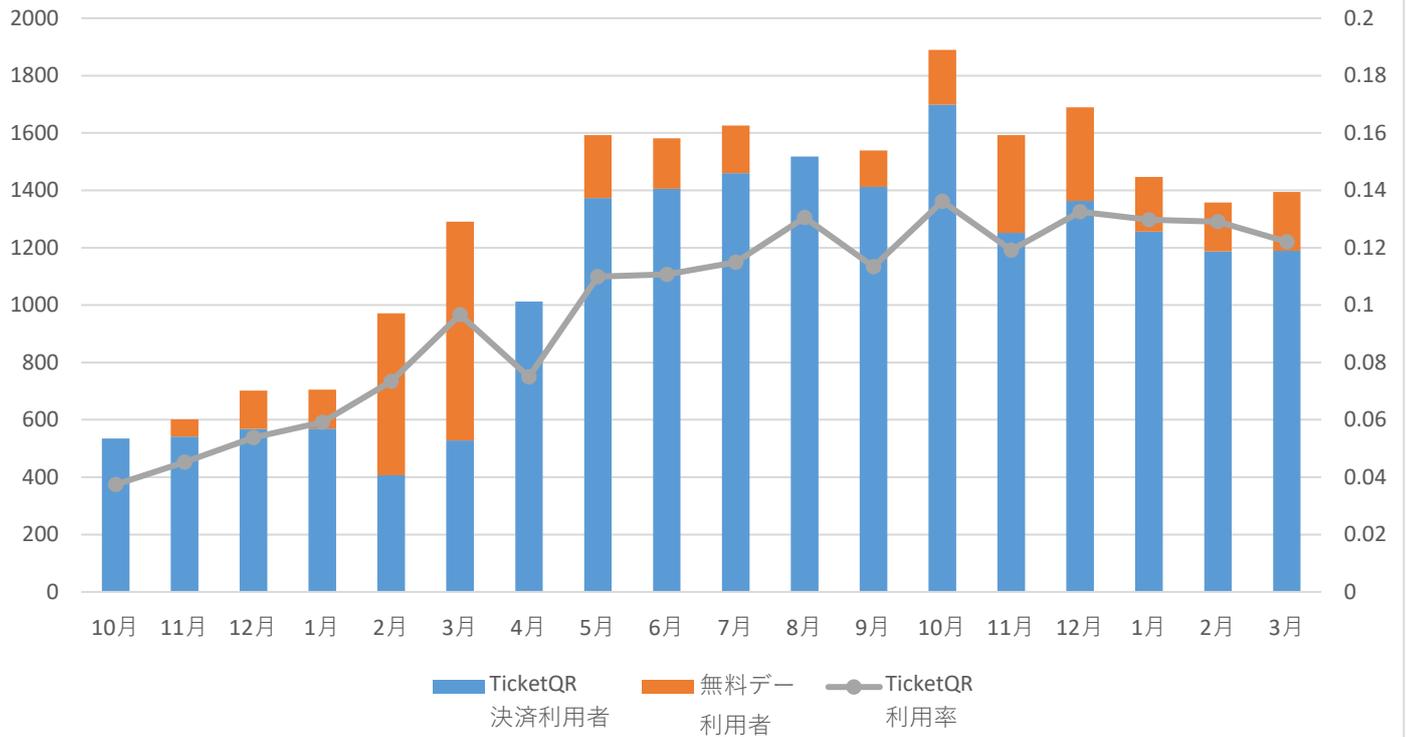
※2：デマンド(東北エリア)は、R7運行開始。設定便数は1900便

※3：デマンド(府中等)(加茂等)は、R7～(東南エリア)に統合

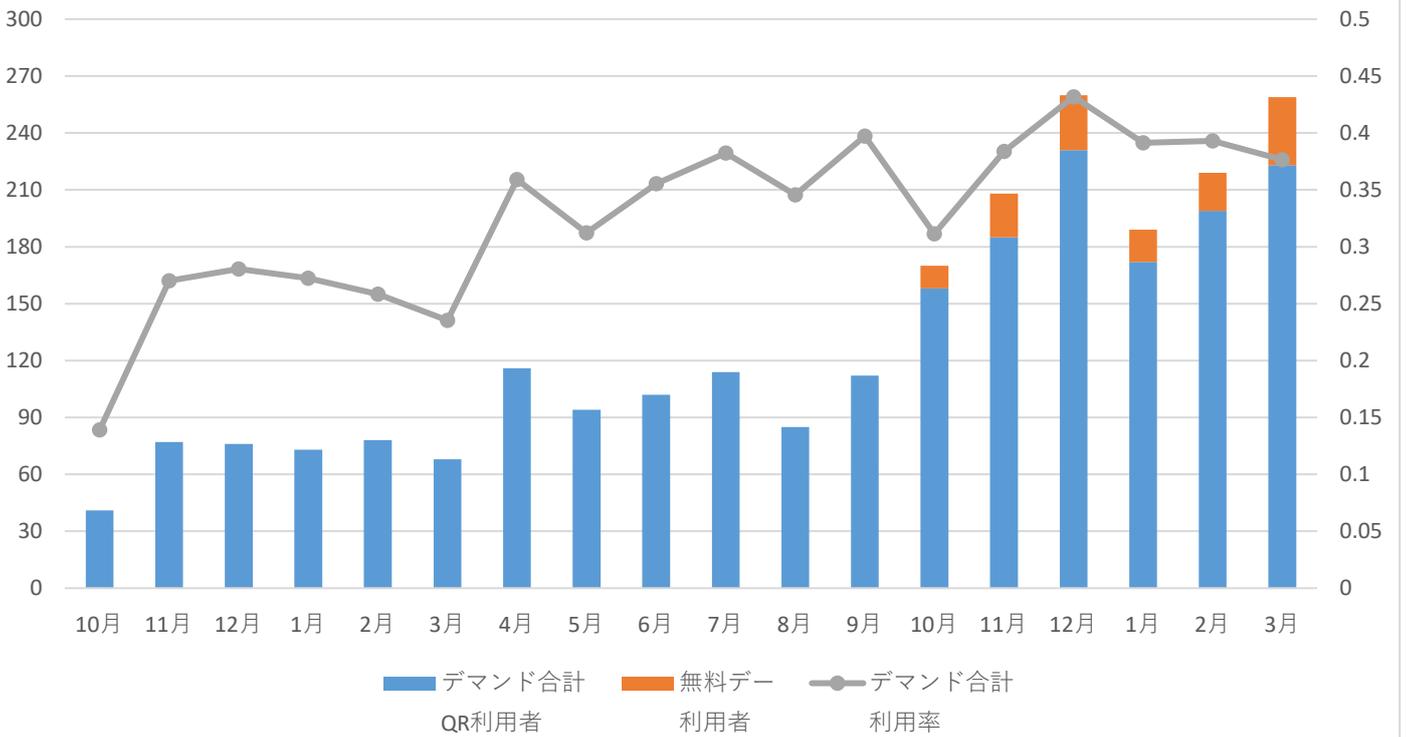
※4：デマンド(川津)は、R7～(南エリア)に区域拡大

設定便数はR6=960便、R7=1780便

バスTicketQR利用推移



デマンド合計TicketQR利用推移



TicketQR公共交通無料デー実施日 (令和7年4月～7月)

実施日	コラボイベント等
4/19(土)	緑のフェスティバル
4/20(日)	駅近さかいで楽市楽座 & 楽市楽座マーケット
	万葉茶会と講演
4/23(水)	第4水曜日(定例日)
5/18(日)	駅近さかいで楽市楽座 & 楽市楽座マーケット
	坂出市長選挙および坂出市議会議員補欠選挙
5/24(土)	坂出商店街第4土曜デー
5/28(水)	第4水曜日(定例日)
6/7(土)	かわつ花菖蒲園一般開放
6/15(日)	駅近さかいで楽市楽座 & 楽市楽座マーケット
6/25(水)	第4水曜日(定例日)
7/20(日)	駅近さかいで楽市楽座 & 楽市楽座マーケット
7/23(水)	第4水曜日(定例日)
7/26(土)	坂出商店街第4土曜デー

- ・無料デー実施日は、**TicketQR(アプリ・プリペイドチケット)の提示で運賃が無料**となります。
- ・対象路線は、循環バス(東ルート・西ルート)、島田岡田線、坂出綾川線、瀬戸大橋線、瀬居線、王越線(木沢行き・林田循環)、デマンドタクシー(東北エリア・東南エリア・南エリア)です。
※瀬戸内国際芸術祭シャトルバスは対象とはなりません。
- ・休日運休の便がありますので、ご注意ください。



令和7年5月18日執行
坂出市議会議員補欠選挙

選挙公報

坂出市選挙管理委員会

【坂出市議会議員補欠選挙】

5月
投票日 **18**日

投票期間 午前7時から午後8時まで。

（ただし、瀬居町・沙弥島・与島町・岩黒・櫃石の
投票所は、午前6時から午後7時まで。）

【期日前投票】

期間：5月12日(月)～5月17日(土)

時間：午前8時30分～午後8時

場所：坂出市教育会館

坂出市久米町一丁目18番20号

～投票のお手伝いをします～

◆点字投票・代理投票

体が不自由な方や自筆できない方は、係員が代筆します。視覚が不自由な方は、点字で投票ができます。

◆投票用紙記入補助具

自筆したいが記入する枠がよく見えないなど不安な方に、記入枠が分かりやすくなる投票用紙記入補助具を貸し出します。

◆コミュニケーションボード・投票支援カード

投票所での問い合わせ等に利用できるよう、イラストや文字で情報を記載したコミュニケーションボードを用意しています。また、投票手続きのお手伝いの内容について、事前に記入できる投票支援カードも用意しています。

◆5/18（日）投票日当日は、「TicketQRで公共交通無料デー」です。スマートフォンアプリTicketQRのインストールと登録で誰でもご利用いただけます。

TicketQRの提示で運賃が無料です。



最新の選挙情報は市ホームページに掲載しています。

○地域の連携協定締結(R7.2.20)



記者発表・資料配布
令和7年2月14日発表

持続可能な公共交通の実現に向けた共創に関する連携協定締結式

- 趣旨**

株式会社坂出自動車学校、琴参バス株式会社、株式会社百十四銀行、坂出市とが相互に連携し、各種地域公共交通が抱える課題の解決に向けて取り組むことで、持続可能な公共交通の実現をめざすことを目的として連携協定を締結します。

「2024年問題」による乗務員不足の深刻化など、公共交通を取り巻く状況が厳しさを増しています。本協定を締結することで、行政や交通事業者だけでなく、市民や市内事業者と密接に関わりながら、地域における事業活動や地域貢献活動を推進している企業とも共創することにより、これまで以上に公共交通の利用促進や、自動運転技術など未来のモビリティの研究・実証に努めていきます。
- 日時** 令和7年2月20日(木) 11:30~
- 場所** 坂出市役所本庁舎本館3階応接室(坂出市室町二丁目3番5号)
- 出席者**

株式会社坂出自動車学校	
代表取締役社長	高橋 勇(たかはし いさむ)
琴参バス株式会社	
代表取締役	佐藤 邦明(さとう くにあき)
株式会社百十四銀行	
取締役常務執行役員	菅 弘(すが ひろし)
坂出市	
市長	有福 哲二(ありふく てつじ)
副市長	浦田 俊一(うらた しゅんいち)
政策部長	林 尚志(はやし しょうじ)

【問合せ】
坂出市政策部政策課公共交通係
担当者 亀井
TEL 0877-44-5001 (内線 134)
FAX 0877-44-5032



左から、(株)百十四銀行、坂出市、(株)坂出自動車学校、琴参バス(株)

※国土交通省ホームページより坂出市部分抜粋

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/146-1.pdf>

地域のモビリティ確保の知恵袋 2024

— 地域交通の利便性向上に向けたデジタル技術活用 —

令和7年3月

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系）



地域のモビリティ確保の知恵袋2024 – 地域交通

■概要

地域交通の利便性向上に向けたデジタル技術活用取組を行う際のポイントを、学識経験者へのヒアリング、取組事例の調査、自治体との伴走型調査等を基に整理

<構成>

1 はじめに

1.1 本書の目的 1.2 本書の構成

2 利便性向上に向けたデジタル技術活用のあり方

○利便性向上に向けたデジタル技術活用に取り組む際の考え方や着眼点、留意点を解説

- 2.1 デジタル技術活用の取組意義
- 2.2 デジタル技術活用への向き合い方
- 2.3 デジタル技術の効果的な活用に向けた着眼点

3 デジタル技術の実装に向けた取組方法

○交通課題に応じた取組例をピックアップ、取組の概要や効果、取組の流れや検討事項、留意点等を解説

- 3.1 情報の明瞭化・充実
(GTFS-JPデータ整備、経路検索サービス掲載)
- 3.2 利用環境の充実・利用促進
(キャッシュレス決済等導入、利用促進策実施)
- 3.3 実態の明瞭化・検討の充実
(地域交通データの取得、データによる利用状況等の把握、可視化・分析)

【参考資料】利便性向上に向けたデジタル技術活用取組事例等

○取組事例調査

- ①地域連携ICカード「ハチカ」を基軸とした路線バスの利便性向上【青森県八戸圏域】
- ②コミュニティバスの再編と合わせたデジタル技術の活用【愛知県南知多町】
- ③「おでかけこもの」による一体的な交通サービスの提供【三重県菰野町】
- ④運賃体系の見直しと一体となったキャッシュレス決済等の導入【香川県坂出市】

○実装支援調査に基づく取組実装に向けた検討概況(自治体との伴走型調査)

・宮城県七ヶ浜町

■骨子

1 はじめに

1.1 本書の目的

- ・昨今、地域のモビリティ確保は大変厳しい状況。
- ・地域交通の持続性確保には、利便性・生産性の両面から、地域交通の「リ・デザイン」(再構築)が必要。
- ・デジタル技術活用は有効な手法の1つ
- ・一方、デジタル技術活用が進展しない自治体も残存。
- ・未進展の理由として、取組内容や効果、取組方法が不明という意見有。

○「地域交通の利便性向上」に着目、デジタル技術活用取組のポイントを整理

○地域交通分野でのデジタル技術活用をこれから進める自治体を念頭に、基本的な知見をとりまとめ

1.2 本書の構成(左記)

3 デジタル技術の実装に向けた取組

3.1 情報の明瞭化・充実

○GTFS-JPデータの整備
○経路検索サービスへの情報掲載 等

(1)取組目的・効果

取組	効果
GTFS-JPデータの整備	・地域交通の基礎的データ(標準形式)の整備 ・情報提供の円滑化
経路検索サービスへの情報掲載	・地域交通の存在の周知 ・地域交通の一体的な利用方法の周知 ・即地的なバス停位置や路線の案内 ・来訪者に向けた地域交通情報のワンストップ提供

(2)取組フロー・検討事項

- ①データ整備方法の検討
- ②地域交通データの準備
- ③データ整備・チェック
- ④経路検索サービスへの掲載
- ⑤メンテナンス

(3)取組の留意点

- ①継続的な取組体制の構築
- ②データの有効活用
- ③運行体系や案内等の見直し

2 利便性向上

2.1 デジタル

- (1)地域交通の利便性向上
○利用者・行政・事業者
○地域交通の利便性向上
○地域交通状況に関する
- (2)デジタルシフト
○近い将来「デジタル」
○将来も視野に入れた
デジタル技術活用

2.2 デジタル

- (1)課題解決の手
○デジタル技術は、
○課題の明瞭化、
○取組効果や技術特
- (2)取組全体のつ
○デジタル技術は、
○地域交通の目指す
まえ、適所にデ
取組全体をプラン
(アナログの取組
○中長期的には、ま
るよう、取組の言
- (3)持続性の考慮
○短期的・限定的な
となる可能性
○取組の持続性の
○取組面・体制面

通の利便性向上に向けたデジタル技術活用

向上に向けたデジタル技術活用のあり方

デジタル技術活用の取組意義

リ・デザインに向けた有効な手段
 交通事業者の各立場で、
 デザインに資する効果が期待
 に関する理解促進、議論の活発化が期待
 ニアへの対応の必要性

「デジタルシニア」が主要な利用者
 された利便性の高い地域交通の実現には、
 活用した取組によるアプローチも必要

デジタル技術活用への向き合い方

手段としての認識

、利便性向上の「手段」
 活用の必要性に関する検討が重要
 特性の理解が必要

プランニング

体系的な課題解決には不十分
 すべき姿やその実現に向けた課題を踏
 デジタル技術活用を位置づけるなど、
 ランニングしていくことが重要
 (組を含め検討が必要)
 地域交通全体でシームレスな取組とな
 計画的な展開が必要

留意

な取組は、利便性向上の効果が不十分

考慮が重要

費用面を意識する必要あり

2.3 デジタル技術の効果的な活用に向けた着眼点

(1) 地域交通課題に応じた取組の検討

地域交通課題：利便性向上(利用者目線)、検討精度向上(行政目線)
 効率性向上(事業者目線)

■課題に応じたアプローチ・デジタル技術活用の取組(例)

課題	アプローチ	取組内容
①情報の明瞭化・充実	複数の地域交通を考慮し、個人のニーズにあった移動方法の提示	・経路検索サービス掲載 (GTFS-JPデータ整備)
	運行状況(走行位置や遅延状況)の明瞭化	・バスロケーションシステム
	乗り場や時刻、運行状況等の明瞭化	・デジタルサイネージ
	体系的な地域交通情報の発信	・ウェブサイト等の整備
②利用環境の充実・利用促進	運賃支払時の負担軽減・サービス向上	・キャッシュレス決済
	運賃支払の負担軽減・サービス向上、利用促進策の効率的な実施	・デジタルチケット
	乗車予約時の負担軽減・サービス向上	・予約・配車システム
	地域交通の一体的な利用環境の整備	・MaaS
③実態の明瞭化・課題検討の充実	利用状況・運行状況等の地域交通実態の詳細な把握	・地域交通データの取得、現状整理
	地域交通の課題に対する詳細な分析	・データに基づいた地域交通課題の分析

(2) 取組フローの検討

○取組のフローを十分に検討することが重要

- ・初期段階：スモールスタート
- ・取組同士の関係性の考慮、アナログの取組も組み合わせた検討
- ・取得したデータは、状況の明瞭化・検討の充実に活用可能
- ・各取組の持続性確保・取組展開には、地域公共交通計画等への位置づけが有効

(3) 持続性を意識した取組の推進

取組面	取組内容
取組面	○地域交通課題に応じた取組の選定とスパイラルアップ ○取組周知・認知向上 ○利用者や交通事業者への配慮
体制面	○コミュニケーション機会の創出 ○地域内での連携体制の構築 ○計画への位置づけ
費用面	○スケールメリットの考慮 ○補助金の活用 ○費用負担方法の検討

取組方法

3.2 利用環境の充実・利用促進

- キャッシュレス決済・デジタルチケットの導入
- サービスを活用した利用促進策 等

(1) 取組目的・効果

取組	効果
キャッシュレス決済・デジタルチケットの導入	・運賃支払いの利便性向上 ・乗継の負担軽減 ・紛失リスクの軽減 ・定時性向上 ・運転手の負担軽減 ・事業者の負担軽減 ・利用データの取得
サービスを活用した利用促進策	・円滑な利用促進策の実施 ・交通施策実施に係る負担軽減 ・特定施策や特定属性に関する利用データの取得

(2) 取組フロー・検討事項

- ① 決済方法・手段の選定
- ② 運用準備
- ③ 周知・広報
- ④ 利用促進策等の実施

(3) 取組の留意点

- ① 地域状況を考慮した決済手段の検討
- ② 利用者・運行事業者への配慮
- ③ ランニングコストの考慮

3.3 実態の明瞭化・検討の充実

- 既存サービスからの地域交通データの取得
- データに基づく利用状況等の把握、可視化・分析

(1) 取組目的・効果

取組	効果
既存サービスからの地域交通データの取得	・効率的なデータ取得 ・継続的なデータ取得
データによる利用状況等の把握、可視化・分析	・利用状況等の詳細な把握 ・感覚的意見に対する定量的な実態の把握・分析 ・継続的な改善に資する指標値の設定 ・可視化・分析による利用状況等の理解促進

(2) 取組フロー・検討事項

- ① 分析目的等の整理
- ② 取得可能なデータの整理
- ③ データの取得・整理
- ④ データの集計・可視化
- ⑤ 考察

(3) 取組の留意点

- ① 分析目的の明確化
- ② データ連携の考慮
- ③ モニタリング体制の構築
- ④ 施策への落とし込み

1 はじめに

1.1 本書の目的

- ・地域交通は、日常生活や社会経済活動に不可欠なものです。しかし、従前からの人口減少や少子高齢化、マイカー利用の定着等を原因とし、需要の減少や担い手不足が生じており、地域のモビリティの確保が大変厳しい状況となっています。
- ・このような状況下で、地域交通の持続性を確保していくためには、利便性・生産性の両面から、**地域交通の「リ・デザイン」(再構築)**を進めていく必要があります。この際、デジタル技術の活用は有効な手法の1つです。
- ・地域交通分野でのデジタル技術活用には一定の進展が見られる一方、活用が進んでいない自治体も少なからず残っています。
- ・当課の過年度の調査では、デジタル技術活用が進まない理由として、「着手すべき取組がわからない」「取組の効果がわからない」「取組方法がわからない」などが挙げられています。
- ・このような背景を踏まえ、本書では「**地域交通の利便性向上**」に着目し、**デジタル技術を活用した取組を行う際のポイント**を、取組事例の調査や学識経験者へのヒアリング調査、自治体との伴走型調査(実装支援調査)を基に整理しました。
- ・**地域交通分野でのデジタル技術活用をこれから進める自治体様**を念頭に、基本的な知見をとりまとめています。本書が、地域のモビリティ確保の一助となれば幸いです。

本書の作成にあたり、以下の皆さまにご協力頂きました。深く感謝申し上げます。

- ・福島大学 教育研究院(経済経営学類担当)* 吉田樹 教授 (*前橋工科大学 クロスアポイントメント)
- ・山口大学 大学院創成科学研究科 鈴木春菜 准教授
- ・青森県八戸市 総合政策部政策推進課
- ・山形県 みらい企画創造部総合交通政策課
- ・岐阜県中津川市 定住推進部定住推進課
- ・三重県菟野町 総務課
- ・宮城県七ヶ浜町 まちづくり振興課
- ・福井県福井市 都市政策部地域交通課
- ・愛知県南知多町 総務部防災交通課
- ・香川県坂出市 政策部政策課

1.2 本書の構成

- ・本書は、「はじめに」を除き、大きく2つの章と資料編で構成されています。
- ・2章では、利便性向上に向けたデジタル技術活用に取り組む際の考え方や着眼点、留意点を解説しています。
- ・3章では、交通課題に応じた取組例をピックアップ、取組の概要や効果、取組の流れや検討事項、留意点等を解説しています。
- ・参考資料では、本資料のとりまとめに際し調査を行った4地域の取組、実装支援調査(伴走型調査)の結果を示しています。

1 はじめに(省略)

2 利便性向上に向けたデジタル技術活用のあり方

- 2.1 デジタル技術活用の取組意義
- 2.2 デジタル技術活用への向き合い方
- 2.3 デジタル技術の効果的な活用に向けた着眼点

3 デジタル技術の実装に向けた取組方法

- 3.1 情報の明瞭化・充実
⇒GTFIS-JPデータの整備、経路検索サービスへの情報掲載
- 3.2 利用環境の充実・利用促進
⇒キャッシュレス決済・デジタルチケットの導入、これらによる利用促進策
- 3.3 実態の明瞭化・検討の充実
⇒地域交通データの取得、データによる利用状況等の把握、可視化・分析

参考資料 利便性向上に向けたデジタル技術活用の取組事例等

○取組事例調査結果

- ①地域連携ICカード「ハチカ」を基軸とした路線バスの利便性向上【青森県八戸圏域】
- ②コミュニティバスの再編と合わせたデジタル技術の活用【愛知県南知多町】
- ③「おでかけこもの」による一体的な交通サービスの提供【三重県菟野町】
- ④料金体系の見直しと一体となったキャッシュレス決済等の導入【香川県坂出市】

○実装支援調査(自治体との伴走型調査)結果【宮城県七ヶ浜町】

【参考事例】持続性を意識した取組の推進

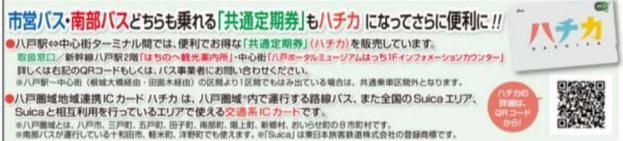
【事例1】地域交通課題に応じた取組の選定【愛知県南知多町、三重県菟野町】			
	課題	デジタル技術活用の必要性	取組内容
愛知県南知多町	・観光客等の海っ子バスの利用促進	・幅広い経路検索サービスへの海っ子バスの情報掲載	⇒ ・経路検索への対応（GTFSデータの作成、オープンデータ化）
	・バス待ちの不安・ストレスの解消 ・利用者からの問合せ対応の負担	・バスの走行位置等の効率的な周知	⇒ ・バスロケーションシステムの導入
	・中学校の統合に伴う、円滑な町内移動への対応 ・人口減少への対応	・学生を対象とした海っ子バスの運賃負担軽減（無償化） ・学生の海っ子バスの利用状況把握	⇒ ・子育て支援策（学生無料）に対応したICカードシステムの導入による公共交通の利用促進策
	・回数券等購入の時間・場所が限定的 ・回数券等の紙販売による負担 ・観光客等の海っ子バスの利用促進	・回数券等をいつでも・どこでも購入できる環境整備 ・企画乗車券の作成・販売の省力化	⇒ ・回数券、一日券、定期券の電子チケット化 ・クーポン券付き一日乗車券（電子チケット）「海っ子バスでゆるり旅」販売
三重県菟野町	（デマンド交通「のりあいタクシー」） ・予約の利便性向上・利用促進 ・予約受付の負担軽減 ・運行の効率化	・予約受付時間の制約の解消 ・予約の管理、配車・運行ルート作成の省人化	⇒ ・「のりあいタクシー」のデジタル化(※)
	・最適な移動手段の選択が困難 ・コミュニティバスとデマンド交通の役割分担の適正化	・複数の交通モードの一体的な情報提供 ・利用データの取得	⇒ ・経路検索サービスの導入(※)
	・交通体系見直しのための利用動向やニーズの把握	・利用データや属性、天候等を掛け合わせた詳細な分析 ・より容易に可視化が可能	⇒ ・BIツールを用いたデータ分析
			(※)MaaS「おでかけこもの」に統合

【事例2】意見交換の体制、地域の連携体制【香川県坂出市、福井県ふくい嶺北連携中枢都市圏】	
香川県坂出市	福井県 ふくい嶺北連携中枢都市圏
<ul style="list-style-type: none"> ・活性化協議会で検討・議論。 ・活性化協議会の下部組織として、中心的なメンバーで構成される分科会を設置。 （構成員：市、交通事業者、学識経験者、警察、商工会議所、住民代表） ・分科会では、現状課題に関して意見交換を行い、分科会での意見を協議会の議題へ反映。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくいMaaS」の取組を契機に、圏域での地域交通に関する連携体制を強化。 ・MaaS協議会後には、課長級WGを開催。交通の喫緊の課題等を含め、情報共有を行い、市町間で連携した協議・検討を実施。 ・福井大学や地域住民、地域企業とも、まちなかの課題について検討する場を設定。

【事例3】費用面の工夫【青森県八戸圏域、香川県坂出市】	
青森県八戸圏域	香川県坂出市
<ul style="list-style-type: none"> ・圏域を運行するバス事業者のICカード導入にあたり、圏域自治体で導入費用を補助（国・県の補助も活用）。 ・ICカード導入や利用促進策の実施にあたっては、費用負担の方法を圏域内の各自治体と十分に協議し決定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が企画立案するとともに、各種補助金を獲得し、導入費用を確保。 ・補助金申請には、市のDX担当部署と連携 ・DXの取組の効果により、従来支出していた運行赤字補助を削減し、DX事業の継続や、さらなる利便性向上を推進。

【参考事例】キャッシュレス決済・デジタルチケットの導入、利用促進策

事例8 導入手段【青森県八戸圏域、香川県坂出市、愛知県南知多町】		
青森県八戸圏域 「ハチカ」(地域連携 IC カード)	香川県坂出市 「Ticket QR」(QR 決済、乗車時・降車時の2タッチ式)	愛知県南知多町 デジタルチケット
		
出典：八戸市ウェブサイト	出典：坂出市ウェブサイト	出典：南知多町ウェブサイト

事例9 キャッシュレス決済を活用した利用促進策【青森県八戸圏域、香川県坂出市】		
青森県八戸圏域 八戸圏域を運行する市営バス・南部バスでは、IC カード利用者を対象に、「共通定期券」「一日共通乗車券」等の企画乗車券を発売	香川県坂出市 キャッシュレス決済の普及と公共交通の利用促進のため、TicketQR のマイナンバーカード連携による運賃低減策や、TicketQR を活用した利用促進策を複数実施	
(共通定期券) 	(坂出市民割) 	(TicketQR で公共交通無料デー) 
(1日共通乗車券) 		出典：坂出市ウェブサイト
出典：八戸市「八戸駅～中心街間共同運行リーフレット」、八戸市ウェブサイト		

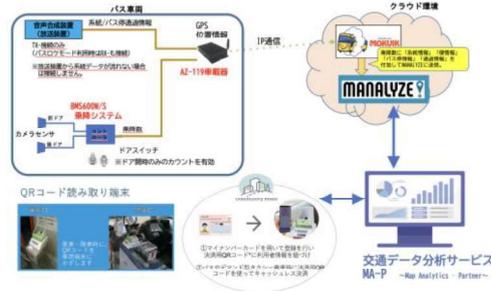
事例10 取組周知【青森県八戸圏域】	
<ul style="list-style-type: none"> 特別乗車証の「ハチカ」移行にあたり、福祉部の更新窓口にて、IC カードリーダーのモックアップを設置し、利用方法を動画と実演で周知。 更新が1年ごとのため、1年半にわたり周知を行うことで、利用者が必ず一度は利用方法を確認できるように配慮。 	<p><更新窓口の様子></p>   <p>出典：八戸市提供</p>

実装支援調査を通じたキャッシュレス決済検討のポイント
<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス決済手段の特徴や事例など、決済手段に関する全体像の理解 全体像を理解したうえで、決済フローや必要機器、費用面などの理解 利用データ(乗降データやODデータ等)の取得に関して、各手法での対応可否や特徴の把握 現在の支払いフローを考慮した検討

事例 11 データ取得【香川県坂出市】

- ・路線バスに設置された専用車載器（バスロケーションシステム、乗降センサー）および決済リーダー（キャッシュレス決済）から、各種データを取得。
- ・自動的に運行系統情報（GPS データ）と紐づけ、クラウドに随時送信。

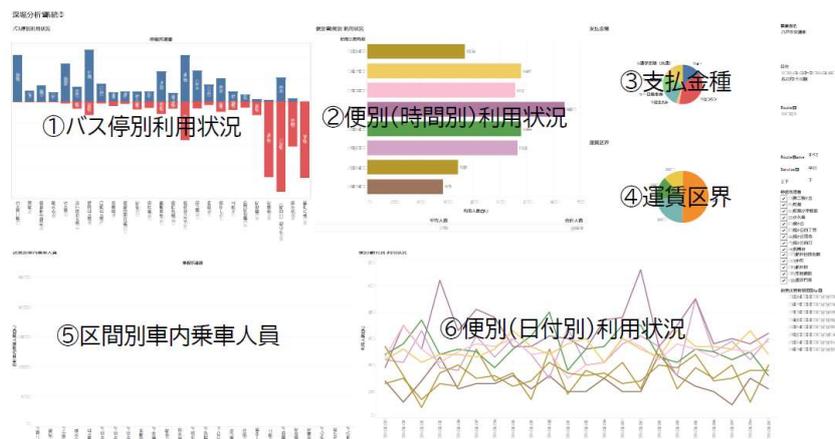
車載器	取得データ
バスロケーションシステム	バスの現在地情報、遅延状況、混雑状況
乗降センサー	バスの総利用者数や停留所別の乗降者数
決済リーダー	OD データ（乗車・降車停留所の組み合わせ）



出典：坂出市

事例 12 データ分析、施策への落とし込み【青森県八戸圏域】

- ・IC カードデータ等を活用した分析を円滑化するため、「バス IC カード可視化・分析システム」を構築
- ・BI ツール「Tableau」をベースで構築
- ・乗降、バス停別、系統別等で多様な分析が実施可能



出典：第3回 地域公共交通計画の実質化に向けた検討会 八戸市発表資料

事例 13 活用目的の明確化【山形県、三重県菟野町】

○山形県、三重県菟野町のご担当者から、以下のような声を頂きました。

山形県

- ・データの必要性について、**誰が・何の目的で使うデータなのか**、理解を促進する必要があると感じる。
- ・データ活用・分析の進展には、**データが持つ意味を読み取るリテラシーや分析方法に対するノウハウ、人材の補強が必要**。

三重県菟野町

- ・BI ツールを利用することにより、データの抽出・可視化が容易にできるようになった。
- ・そこから、どのように活用していくかについては今後の課題である。学識経験者等への相談も必要である。

参考資料 地域交通の利便性向上に向けたデジタル技術活用の取組事例

取組状況調査結果

- ・本年度の「地域のモビリティ確保の知恵袋」とりまとめにあたって、デジタル技術活用の取組を進めている4自治体を対象に取組状況の調査（机上調査・ヒアリング調査）を行いました。
- ・各自治体の取組状況等を以下より示します。

取組状況調査の実施自治体

対象地域	類型(取組課題)	ページ	概要
青森県 八戸圏域	②利用環境の充実・利用促進 ③地域交通実態の明瞭化・検討の充実	資-2	<p>○地域連携 IC カード「ハチカ」を基軸とした路線バスの利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸圏域公共交通計画(H22年度(定住自立圏事業))、八戸市地域公共交通総合連携計画(H21年度)に端を発し、公共交通の利便性向上に向けた取組を長年推進。 ・八戸圏域地域公共交通網形成計画(H31年度)に基づき、地域連携 IC カード導入を基軸に置いた取組を推進。データ活用によるバス利用実態の把握・検討にも着手。
愛知県 南知多町	①情報の明瞭化・充実 ②利用環境の充実・利用促進	資-8	<p>○コミュニティバスの再編と合わせたデジタル技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通総合連携計画の策定(H22年度)以降、計画に基づき、継続的に地域公共交通の維持・確保を推進（計画も随時更新）。 ・網形成計画では、GTFS-JPの作成、地域公共交通計画では、コミュニティバスの再編と併せてバスロケーションシステムやデジタルチケットの導入等に取り組む。
三重県 菰野町	①情報の明瞭化・充実 ②利用環境の充実・利用促進 ③地域交通実態の明瞭化・検討の充実	資-15	<p>○「おでかけこもの」による一体的な交通サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2.1にMaaS「おでかけこもの」の運用を開始し、経路検索、デマンド型交通のウェブ予約サービスを導入。 ・その後、「おでかけこもの」に、バスロケーションシステム、デマンド型交通の事前決済、デジタルチケット等の機能を拡大。 ・BI ツールを用い、「おでかけこもの」等から得られる公共交通の利用データを可視化。
香川県 坂出市	②利用環境の充実・利用促進 ③地域交通実態の明瞭化・検討の充実	資-23	<p>○運賃体系の見直しと一体となったキャッシュレス決済等の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4.11に地域公共交通計画、R5.7に利便増進実施計画を策定。計画に基づき、R5.10に地域公共交通ネットワークの再編及び運賃体系の見直しを実施。 ・同時に、キャッシュレス決済を導入し、キャッシュレス決済利用者を対象とした無料デー、マイナンバーカード連携による市民認証機能を活用した市民割などの利用促進策を実施。 ・キャッシュレス決済データの他、乗降センサーから得られるデータを取得し、バス等の利用状況を整理・分析。

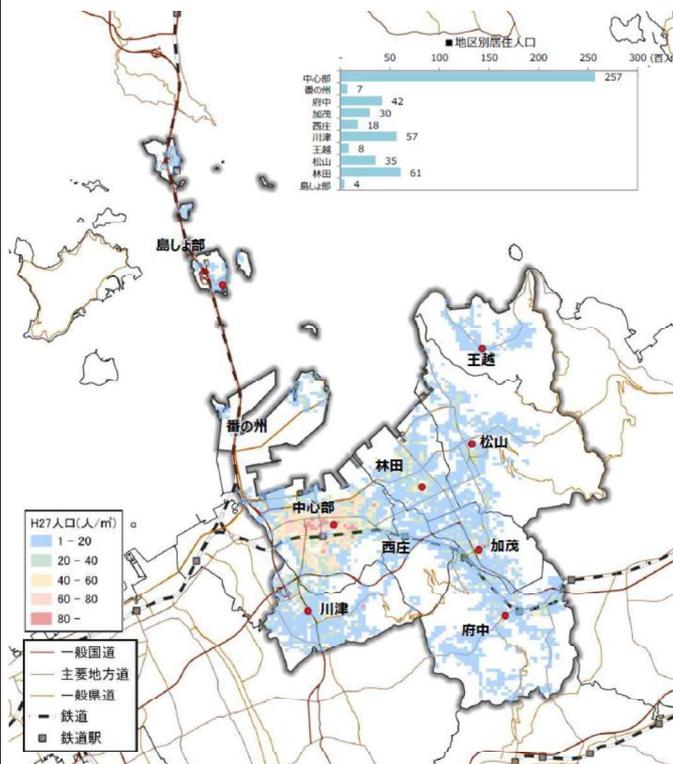
運賃体系の見直しと一体となったキャッシュレス決済等の導入
【香川県坂出市】

No	4	取組類型	情報の明瞭化・充実	利用環境の充実・利用促進	実態の明瞭化・検討の充実
取組名	運賃体系の見直しと一体となったキャッシュレス決済等の導入【香川県坂出市】				

■地域の現状	
対象地域	香川県坂出市
	人口(R2 国調) 50,624人
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県のほぼ中央部に位置、瀬戸内海を挟んで岡山県に面している。 ・沿岸部に工業団地が整備され、全国有数の「港湾工業都市」として発展。 ・瀬戸大橋や四国横断自動車道の整備により、四国の玄関としての役割を担う。 ・こうした特性を活かし、若い世代に「選ばれるまち」の実現を目指している。
地域交通状況	主な地域内交通 ○鉄道：JR 四国瀬戸大橋線、予讃線 ○路線バス：琴参バスが8路線を運行 ○デマンド型交通：デマンド型乗合タクシーが3地区で運行
	地域交通の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりへの対応 ・生活移動ニーズと公共交通体系の不整合（ミスマッチ） ・公共交通に対する認知度向上、ニーズの収集と反映 ・関係者の参画と関係者間の連携強化 ・事業の継続性、持続可能な運行体系 ・時代の変化への対応
地域交通推進体制	坂出市地域公共交通計画（R4.11 策定、R5.7 改訂） 坂出市地域公共交通利便増進実施計画（R5.7 策定、R6.7 改訂） 坂出市地域交通活性化協議会、地域公共交通計画推進分科会

関連図表

○人口分布等



出典：坂出市地域公共交通計画（人口：H27 国勢調査）

○公共交通ネットワークの現状等



出典：坂出市公共交通マップ（令和6年10月1日改訂）

■地域交通の利便性向上に向けたデジタル技術活用の状況

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・坂出市では、R4.11に地域公共交通計画、R5.7に利便増進実施計画を策定。計画に基づき、R5.10に地域公共交通ネットワークの再編及び運賃体系の見直しを実施。 ・同時に、キャッシュレス決済を導入し、キャッシュレス決済利用者を対象とした無料デー、マイナンバーカード連携による市民認証機能を活用した市民割などの利用促進策を実施。 ・キャッシュレス決済データその他、乗降センサーから得られるデータを取得し、バス等の利用状況を整理・分析。 		
取組内容	アプローチ	取組内容（※朱塗：本知恵袋で着目した取組）	
	①情報の明瞭化・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・GTFS-JPデータの整備・オープンデータ化 ・バスロケーションシステム「バスきよん？」の導入 ・スマートバス停の導入 	
	②利用環境の充実・利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済アプリ「TicketQR」の導入 ・キャッシュレス決済アプリ「TicketQR」を活用した利用促進策（バス無料デー、マイナンバーカード連携による市民割） 	
③実態の明瞭化・検討の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの運行・利用データの取得・分析（バスロケーションシステム、乗降センサー、決済リーダーのデータをGTFS-JPデータと紐づけ、人口等と組合せ） 		
取組の特徴	アプローチ検討	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカード連携による市民認証機能を備えたキャッシュレス決済を導入することで、効率的に市民への運賃割引支援が可能になったことで、運賃体系の見直しも実施。 ・公共交通とキャッシュレス決済の利用促進のため、キャッシュレス決済を利用した利用者支援策を実施。 ・路線再編に向け、E B P M実現のためのデータ取得。 	
	ロードマップ設定	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃体系見直し・路線再編と、マイナンバーカードと連携したキャッシュレス決済導入の一体的な推進。 ・デジタル技術活用の段階的な推進（GTFS-JPデータ整備→バスロケーションシステム導入→キャッシュレス決済→キャッシュレス決済を活用した利用促進→データ活用）。 	
	実装推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン制運賃に対応し、市民割が可能なキャッシュレス決済手段を導入。 ・キャッシュレス決済を活用し、ターゲットを設定した利用促進施策や利用者支援施策により、公共交通とキャッシュレス決済の利用を促進。 ・様々なデバイスからデータを自動取得可能な仕組みを構築。 	

■デジタル技術活用の進め方

■アプローチ検討

・運賃体系の見直しと合わせ、市民に限定したとした運賃割引を実施するため、マイナンバーカードと連携したキャッシュレス決済が必要であった。

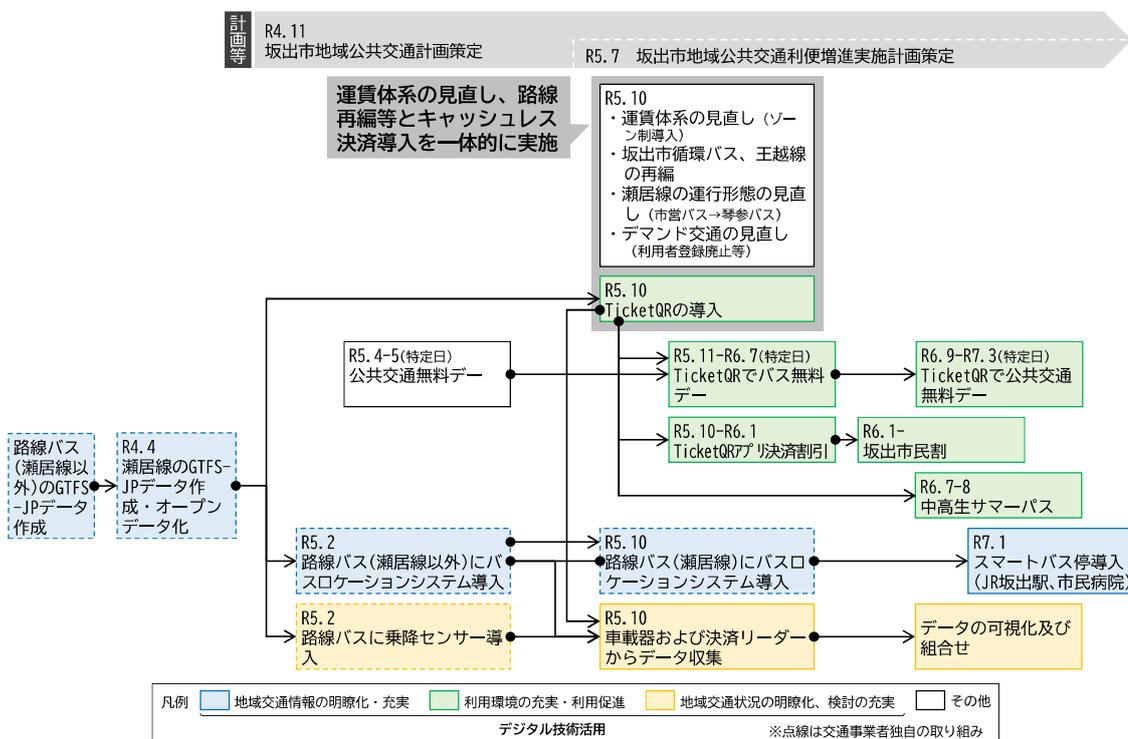
課題	デジタル技術活用の必要性	取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・交通モードによる運賃格差 ・物価高騰を踏まえた運賃適正化 ・運賃値上げによる多頻度利用者の負担増大 	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃体系の見直しを行う際の、効率的な市民への運賃負担軽減策 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済のマイナンバーカード連携による運賃の市民割
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通への市民の関心の低さ ・高齢者のデジタル技術への心理的な抵抗感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを設定した利用促進施策や利用者支援施策による利便性の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済を活用した利用促進策
<ul style="list-style-type: none"> ・路線再編検討のためのデータが不足（運転手による乗車人数のカウントは全体の乗車人数のみ把握） 	<ul style="list-style-type: none"> ・E B P Mによるバス停別利用者数の詳細な利用実態の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの運行・利用データの取得・分析

■ロードマップ設定

- ・運賃体系見直しと、キャッシュレス決済導入による効率的な市民への利用支援は不可分の取組であり、同時に実施が必要。
(一方、地域公共交通計画の策定時点では、運賃体系見直し・キャッシュレス決済の手段の目的が立っていなかった。)
- ・デジ田交付金を財源として活用し、マイナンバーカード連携機能を備えたキャッシュレス決済を導入することにより、効率的に運賃の市民割が可能となったため、運賃体系の見直し・路線再編と併せて、利便増進実施計画を策定し取組を推進。
- ・GTFS-JPデータの整備・バスロケーションシステムの導入は、交通事業者が独自に検討。
⇒地域公共交通計画にも位置付け。
- ・GTFS-JPデータはキャッシュレス決済の運賃算定やバスロケーションシステムの経路データ、スマートバス停への時刻表表示にも活用。
- ・これらのデジタル技術により、データ取得・データ活用にも繋がっている。

<デジタル技術活用の展開>

取組展開の考え方



検討体制

- ・活性化協議会の下部組織として、分科会（市、交通事業者、学識経験者、警察、商工会議所、住民代表）を設置。現状課題に関して意見交換を行い、分科会での意見を協議会の議題へ反映。
- ・補助金申請には、市のDX担当部署と連携して進めた。

取組スキーム

- ・市が企画し、交通事業者の協力を得て実施。
- ・市が企画立案するとともに、各種補助金を獲得し、導入費用を確保。
- ・キャッシュレス決済については、ランニングコストも市が負担。
- ・GTFS-JPデータ整備、バスロケーションシステム、乗降センサーの導入については、事業者主体で実施。

理解・協力の工夫

- ・スマートフォンを持っている高齢者は多く、高齢者はデジタル技術を使えないのではなく、初めての利用への抵抗感・不安感が強いだけだと捉えている。
⇒キャッシュレス決済アプリのインストール・紐づけサポートは市の窓口で実施。(初年度は交付金を活用して委託窓口でもサポートを実施)
- ・キャッシュレス決済導入にあたり、交通事業者からも歓迎されたが、運転手が慣れるまでの不安はあった。

■取組内容

①キャッシュレス決済アプリ「TicketQR」の導入

取組概要

- ・市内を運行する路線バス、デマンド型乗合タクシー(全地区)にキャッシュレス決済アプリ「TicketQR」を導入。
- ・バス車両では乗車時と降車時にQRコードを読み取り、GPSにより乗車バス停・降車バス停を判断して運賃を算定し、ゾーン制運賃に対応。
- ・運賃の支払いは、クレジットカードやPayPayなどの既存アプリから精算。(アプリ内のプリペイドや定期券購入による利用も可能)
- ・マイナンバーカード連携により利用者が市民かどうかの判別が可能、市民割引に活用。【⇒取組②】
- ・紙にQRコード印刷したプリペイドチケットの販売によりデジタルデバインドへの対策を実施。

<アプリ画面と車載器>



出典：坂出市ウェブサイト

<マイナンバーカードとの連携方法>



出典：坂出市ウェブサイト

<プリペイドチケット>



出典：坂出市ウェブサイト

効果

- ・運賃体系の見直しや市民割などと合わせて、公共交通の利用者増や収支改善が図れた。
- ・デジタルデバインド解消やマイナンバーカード活用にもつながっている。

課題

- ・現在ほとんど利用されていない定期券機能の利用促進。
- ・他部署や様々な分野の事業者と連携したキャッシュレス決済の周知。
- ・公共交通以外のシーン(商店等)でのTicketQR決済活用によるアプリの普及促進。

②キャッシュレス決済アプリ「TicketQR」を活用した運賃低減策

取組概要

- ・キャッシュレス決済普及と公共交通利用促進のため、TicketQRを活用した運賃低減策・利用促進策を実施。

①TicketQRで公共交通無料デー

- ・路線バス・デマンドタクシーにおいて、特定日にTicketQRアプリ又はプリペイドカードの利用者の運賃を無料化。

②坂出市民割

- ・TicketQRとマイナンバーカードを紐づけ、市民認証。認証を受けたアプリ決済利用者を対象に公共交通の運賃を割引。(一乗車当たり一律100円引き)。
※市民割プリペイドチケットも販売

③中高生サマーパス

- ・坂出市に在住又は通学の中高生を対象に、期間中の公共交通が乗り放題の定期券「中高生サマーパス」をTicketQRアプリ上で販売。

④高齢者免許返納プリペイド

- ・高齢者運転免許証自主返納支援事業の一環として、免許返納者に1万円分の専用プリペイドチケットを交付(毎年度)。

<無料デーのバス利用方法>



出典：坂出市ウェブサイト

<チラシ>



取組概要 (続き)

出典：坂出市

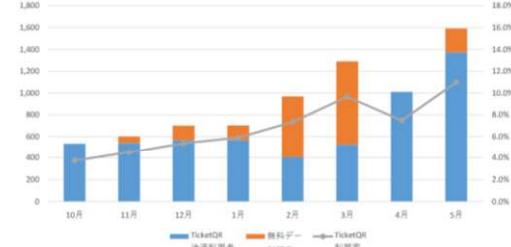
問題

- ・貸切バスの乗務員が路線バスに乗務する際に、キャッシュレスによる運賃支払いへの対応に不慣れなため、混乱が生じる場合もあった。
- ・バス無料デーでは、運転手へのアプリ提示のみで乗車が可能として運用しているため、バス無料デーのODデータが取得不可（技術上は車載器への読み取りによる無料化運用も可能であるが、通常と異なる車載器の操作が必要となるため、トラブルを避けるために実施できていない）。

効果・課題

- ・「TicketQRで公共交通無料デー」は、公共交通やキャッシュレスの利用促進に寄与。
 - ・その他施策の利用者が想定よりも少なく、取組の周知が必要。
- [坂出市民割]マイナンバーカードと連携している人数が少ない
[中学生サマーパス]利用が想定を下回る
[高齢者免許返納プリペイド]交付数に対して利用金額が小さい

<TicketQR 利用推移 (バス) >



出典：坂出市資料

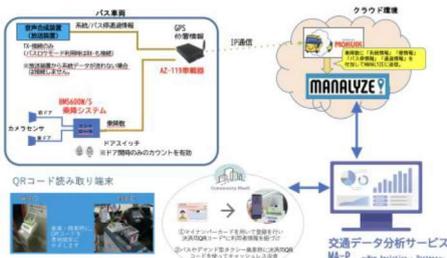
- ・行政や交通事業者による情報発信には限界があり、市民が利用する商業施設等との連携が必要。（デマンドタクシーにおける利用率は40%を超えており、狭い車内で乗り合うため、口コミによる広がりも大きい）
- ・公共交通自体に対する市民の関心を高めていくことも必要。特に、免許返納後に公共交通を利用するためには、元気で車を運転できるうちに公共交通に乗り慣れていることが必要。

③路線バスの運行・利用データの収集・分析

取組概要

- ・路線バスに設置された専用車載器（バスロケーションシステム、乗降センサー）および決済リーダー（キャッシュレス決済）から、各種データを取得。
- ・自動的に運行系統情報（GTFS-JP データ）と紐づけ、クラウドに随時送信。
- ・収集した路線バスの利用データから OD データを作成するとともに、人口分布などの各種データ、オープンデータを組み合わせ、路線バスの利用状況を整理するとともに課題を分析。
- ・集計・分析結果は、活性化協議会で共有し、事業評価に活用するとともに、事業評価結果は市ウェブサイトでも公開。

<システム (イメージ) >



出典：坂出市資料